

～シリアル・ルネッサンス～ <http://www.riceisland.co.jp>

中国食糧輸入国に転落！！

中国が食糧輸入国に転落および今後の行き方

中国は今年の1-6月の穀物輸入量が輸出量を上回っていたため、中国1949年の建国後の初めのこととなりました。中国の政府統計により、2004年の穀物の不足分は約2500万トンとなります。中国が食糧輸入国に転じれば、発展途上国を中心に食糧供給のバランスを崩れ、世界における食糧供給不足の懸念が広がっています。

しかし、最近何年間の中国穀物生産量および近年に中国の農業政策を考慮し、中国の食糧不足および世界食糧供給バランスに及ぼす影響はそこまで至らないと考えています。

中国食糧生産量は1998年が5億1千2百29万トン、1999年が5億8百38万トン、2000年が5億トン以下に転じ、2003年までには食糧輸出国として来たわけです。しかし、1998年からの豊作で、政府保存穀物の在庫は満杯で財政の大きな負担となり、農家の穀物在庫により穀物の売るには難しく、農民の積極的な持続生産性まで影響されています。上記の原因だけではなく、1998年の大水害により、環境保全のため、政府は耕作地の縮小政策も出し、「退耕還林、退耕還草」の政策で一部農耕地を植林地と牧草地に転換させた。これも2000年からの穀物収量の減少の主な原因ではないかと考えています。

2003年年末の中国政府国営糧食倉庫に1.8億トンの在庫があり、平均1軒の農家の在庫にも506キロがあり、農家の在庫が3.89億トンになり、合わせて5.69億トンの在庫があったことに対して、年間必要量は4.8トンとしても、消費量は在庫より下回りであったことが分かります。

2004年中国の食糧予定の収穫量は4.55億トンとされているが、中国の年間穀物の必要量は4.8億トンとし、今年の不足分は上記のように0.25億トンです。しかし、2004年の世界穀物の収量を着目すれば、ヨーロッパ、インド、ロシア、中国の豊作だけで0.86億トンの増産が見越し、今年世界の穀物予想収量は19.42億トンとなり、2003年の世界穀物の収量に比べて、1.055億トンを増産するので、世界中の穀物価格の高騰には繋がらないと認識しています。

中国農業研究員情報センターの予測は楽観的であり、2030年まで中国年間穀物の必要量は7.02億トンとし、そのときの年間国内生産量は6.9億トンになり、不足分は僅かだと予測されています。

アメリカ農業部の予測により、今年中国の小麦輸入量は850万トンとなり、来年に1000万トンとします。その後、中国政府の小麦生産奨励政策により、国内小麦生産量が増え、年間小麦輸入量は500万トン程度だと予測されます。

とうもろこしは中国の伝統的な輸出穀物なのに、来年から200万トンのとうもろこしを輸入し、2014年に輸入量は370万トンとなる予測もあります。